



南九州税理士会鹿児島支部

田之畑 龍一

私の苦心

租税教室にはせる思い



室に対する理解が深く、特に小学校から大半の依頼があります。私も年に10校

7年前、支店開設という形で故郷の地に戻ってきた私は、20年以上の空白期間を埋めべく、地元での交流の場を求めました。そこで私が飛び込んだのは、南九州税理士会鹿児島支部の租税教育推進部(当時は社会貢献対策部)でした。鹿児島支部でのオリエンテーションにおいて、部会の活動内容を聞いた当初は、個人的に興味のあった「デジタル部」(当時は情報システム部)に参加しようと考えていましたが、部会で配席されたのが租税教育推進部のテーブルであり、これも一つのご縁と考えて入部させていただきました。

租税教育推進部はその名の通り、2011年度税制改正大綱にて初めて閣議決定された「租税教育の充実」に貢献すべく、租税教室への講師派遣を中心に活動しております。鹿児島支部におきましては、小学校、中学校をはじめとし、高校、大学や公民館(社会人向け)にまで幅広く租税教室を開催させていただいております。鹿児島市内の学校は租税教

ほど講師として伺わせていただいております。鹿児島支部の租税教育推進部では部員全員が同じ教材を使用し、定期的に研修会を行うことで講師による偏りが少なくなるよう努めております。また、体育館などで学年全体に行う形式ではなく、クラス単位での開催にこだわっております。これは、生徒とより近い距離で講義を行うことで、講義中の生徒の興味を少しでも維持したいという目的で、各学校からも一定の評価を頂いております。一方、クラスごとでの開催のためには、派遣する講師を確保することが必要であり、部員数の確保が常に課題となっております。現状としましては、例会や研修会などの際、会員の方々にお声かけをさせていただいており、毎年数名程度の新入部員を獲得できています。

講義内容については、長年同じ内容で行っていることから、より効果のある教材の作成についても議論を進めております。現在の教材は途中で15分程度、国税庁が製作しているアニメーション動画を見てもらうものとなっ

ており、動画の内容も分かりやすく、学校側からも好評なのですが、半面、現在の教材を超えるものを新たに生み出すことが非常に難しく、試作してはボツになることを繰り返している状況です。また、中学校・高校向けに使用している教材は生徒参加型の内容で、こちらも学校側からは一定の評価を頂いているのですが、後半の説明の部分で飽きられてしまうところが課題となっております。学年が上がっていくにつれ、講義に対する興味を持続させるのが難しいと実感しております。

租税教育は、次代を担う児童・生徒などが、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てることを目的としており、われわれ税理士も、税理士法でも規定されている税理士の使命として、独立した公正な立場において、税の役割について指導するという、社会貢献活動の責務を全うしていきたいと考えております。

さらには、講義を受けた子どもたちの中から、税理士という職業に興味を持ち、資格取得を目指す方が少しでも出てきてもらえればと、次代の税理士誕生に思いをはせているところでです。